

全ての争議を解決し
安全・安心の航空へ

航空連ニュース

航空労組連絡会
大田区羽田 5-11-4 フェニックスビル
Tel 03-3742-3251
Fax 03-5737-7819
No.1007 (35-28) 2021年3月1日

我慢の生活 要求は切実

2020年はコロナ禍の影響で年収は大きく落ち込み、出向や休業など働く環境も大きく変わりました。一方、新型コロナワクチン輸送が始まり、航空は公共交通機関として重要な役割を果たします。運航の安全を支える整備や地上支業務を行うグラハンの春闘要求は切実です。

た。年収に占める一時金の割合が大きく、一時金の低下は退職につながっている。一時金に頼らない賃金制度にしていく必要がある。感染症対策に関する要求も重要な柱だ」と話します。

トーイング機数が1.5倍に急増

JGS労組によると、減便によって羽田空港でのトー



イング作業が急増し、コロナ前は1日平均100機前後だったトーイング機数が1.5倍の150機前後になり、170機を超える日もありました。トーイング職場では食事時間以外はほとんど控室には戻れず、一日の仕事が終わるとぐったりです。現在は120機前後ですが、駐機移動や整備作業等のオーダーも多く、次から次にトーイング作業を行っています。

ローン返済我が家も厳しい

春闘アンケートに寄せられた声より。

コロナで日勤者の勤務が輪番制になった。日勤者の穴埋めはシフト勤務者がするので早出残業が増えた。コロナが怖い、危険手当がほしい。

会社の業績悪化は理解するが、我が家の生活も家のローンに教育費で厳しい。

会社は、出向で得た収入は言えないっていうけど、みんなが出向先で頑張っているのに言えないなんて納得できない。

テレワークできない職場のコロナ対策をもっとしっかりやってほしい。

以上

年収の引き上げ何としても

2度目の緊急事態宣言が発令され労使交渉への影響が懸念されましたが、オンラインや人数的な制約を受ける中、労使交渉が精力的に行われています。日航ユニオン（JLU）の菊田書記長は、「飛行機は飛ばなくても整備は常に必要。それが安全運航を担保することにつながる。暮らしはこの1年で大きく変わった。年収の大幅ダウンで生活は厳しい。家のローンや教育費など出費は待たなし。何としても年収の引き上げが必要だ」ときっぱり話します。JGS労組の安藤書記長は「底上げのために、25歳で基本給の時給換算1500円を下回らない賃金制度を求めていく。2020年は100万円を超える年収ダウンになっ